

初めてのチャレンジ! 今年こそチャレンジ!



2013 **第4回**
学生チャレンジ
企画 募集!

福祉・環境、地域活動、ボランティアなど、
学生の取り組みを大学が応援し、
サポートする制度です。

主催：総合企画部 学生生活部

- 募集期間：4月末～6月
- 応募資格：本学に在籍する学生（大学院生、留学生別科生含む）のグループ
- 奨励金：30万円を上限として6件程度を予定

※応募方法などの詳細は4月中旬にホームページにて発表します。

お問い合わせ先

文京キャンパス 広報室

TEL.03-3947-7160

E-Mail : web-pub@ofc.takushoku-u.ac.jp



学生チャレンジ企画
実施報告書

2012年度(第3回) 学生チャレンジ企画



実施報告書

学生チャレンジ企画は創立110周年を記念して、2010年にスタートしました。この取り組みは社会貢献、国際交流、大学の活性化などにつながる活動を積極的に行っている学生をサポートするものです。

第3回となる2012年度は、21件の応募があり、書類選考、そしてプレゼンテーション選考の結果、6件の企画が優秀企画に選ばれました。各団体は、実施計画書、中間報告、学チャレ・レポートのホームページ上での公開を通じて、広く学内や学外へ自らの活動を伝えてきました。

この最終報告書は、学生の約1年間にわたる活動の集大成です。ぜひ、拓大生のチャレンジ精神に触れてみてください。

スケジュール

4/28 (土)	6/8 (金)	5/24 (木)	6/12 (火)	6/16 (土)	6/20 (水)	7/7 (土)	10/10 (水)	12月~2月
募集期間	学生 チャレンジ HP 開設	第一次 書類選考 発表	第二次 プレゼン 審査	選考結果 発表	奨励金 授与式	中間報告 発表	最終報告	

最終実施報告書 21件の応募から6件を採用

企画名	団体名	奨励金	掲載ページ
Volunteer Team による被災地復興に向けてのスタディツアー	Takushoku Volunteer Team	300,000 円	P3~
八王子の山車文化継承をサポートする	工学部デザイン学科 工藤研究室	150,000 円	P5~
官学連携による地域犯罪改善のための環境犯罪学的提言	守山ゼミ・渡邊ゼミ連合	250,000 円	P7~
日系ブラジル人、職育の体制づくり	国際学部(有志)	100,000 円	P9~
拓殖大学から広がる地域づくり ~世界に飛び出す子供たち~	国際学部 下條正男ゼミ	100,000 円	P11~
私たちができる地域貢献 —小学校での英語活動を通して—	国際学部 佐藤ゼミ 有志	100,000 円	P13~



講評 「学生チャレンジ企画」を終えて

拓殖大学 副学長 高橋 敏夫

チャレンジの意味は言うまでもなく、挑戦です。そして、その響きから感じる意味合いの奥には、特に困難な物事や未経験のことに対する行動と同時に、その結果が、自己啓発のみならず他の人々へ感動と勇気を与えることが窺われます。

最近の世相には、あえて「火中の栗を拾う」様な気概に欠けている傾向が見られます。それが、結果的に、若者に覇気がないとか、志に欠ける等の批判に繋がるのであれば、頑張っている若者にはめげずに、その批判を覆す気概を取り戻して欲しいと願わざるを得ません。

拓殖大学は1900年(明治33年)に創立され、百十余年の歴史の中で一貫して継承してきた「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた、有意な人材を育成する」と謳われた建学の精神を堅持してきました。正に、大いなるチャレンジ精神を持ったグローバル人材の育成が、本学教育の要であります。

広くグローバル人材の育成と、大いなるチャレンジ精神が求められている今、拓殖大学が継承してきた建学の精神を心の内に秘め、日頃の研鑽と活躍を内外に披露する絶好の機会であり、拓殖大学の出番です。グローバル化の波と時を同じくして、拓殖大学が平成22年度に創立110周年を迎えました。同時に掲げられた拓殖大学ルネサンス計画を糧に、「学生チャレンジ企画」が提案され、今年で3回目を迎える運びとなりました。時宣を得た企画であったと確信しています。そして、その要請に応え、毎年多くの学生によるチャレンジ企画の応募があり、採択された企画がおおいに評価されていることは喜ばしいことです。

本年度の応募条件は、拓殖大学生(大学院/留学生別科を含む)、奨励金は30万円を上限とし、募集期間は4月28日~6月8日ではほぼ昨年を踏襲した内容で募集を開始しました。このキャンペーンに21件の意欲的な応募がありました。それぞれの企画案に対し、書類審査、並びにプレゼンテーション審査を行いました。審査に際しては、厳正を期したことは当然ですが、採択の基準としては、本チャレンジにマッチしたチャレンジ精神の発露である、動機と熱意、チームワーク、継続性、社会性や時期等を特に重視しました。その結果6件の企画が採択されました。

それぞれの企画は主に7月~12月の約5か月に渡って実行され、その経過は10月の中間報告において、また、個々の活動についてはホームページ上で「学チャレ・レポート!」として公開・発表されました。昨年との大きな違いは、紅陵祭での発表からホームページへその発表の場を変更したことです。ネットでの配信によって、より広く、よりタイムリーに皆さんへ公表することが出来たと思います。これらの経過を通して得られた感想や意見を付け加え最終的に纏められたのが本報告書です。この報告書から同世代の若者の心に新しい挑戦意欲と仲間が誕生することを期待してやみません。





企画名

Volunteer Team による 被災地復興に向けてのスタディツアー

団体名 Takushoku Volunteer Team 国際学部 国際学科 2年 代表者 石川 栄貴 他15名

実施内容

実施スケジュール 平成 24 年 7 月～ 12 月 25 日

7月13日～15日	宮城県石巻市 第一回派遣 報告会(学内)	7月23日	報告会(学内)	10月5日～10月8日	宮城県石巻市 第三回派遣 報告会(学内)
7月29日～8月2日	宮城県石巻市 第二回派遣 報告会(学内)	9月26日	報告会(学内)	10月17日	報告会(学内)
				12月22日～12月25日	宮城県石巻市 第四回派遣 報告会(学内)

東日本大震災後、拓殖大学国際学部の学生たちが立ち上がり、被災地復興支援ボランティアを目的とした拓殖ボランティアチーム(以下TVT)を発足しました。

これまでの主な活動は「現地への派遣活動」「勉強会」「ワークショップ活動」でした。派遣活動の実施におけるTVTの役割は「学生の活動参加のハードルを下げる」が組織としての役割であり、派遣の企画から派遣終了後の活動報告会まで責任を持って実行してきました。そのほかにもこの学生チャレンジへの参加や、社会人基礎カレッジの参加もTVTの活動の一環として行いました。

これまでの派遣活動では、受け入れ先のNGOや活動先で内容は異なりましたが、どれもマンパワーを必要とするものでした。共通するのは瓦礫撤去、ヘド口の除去作業などです。しかし今回のスタディツアーは震災から1年半以上が経過し、人々の被災地への関心が薄れるなか、もう一度被災地に関心を向けようことを目的としています。そのため①復興の真只中にある被災地の状況を把握し、理解する。②活動して得た知識を多くの人に伝え関心を持ってもらい、できごとを風



第一回派遣 NGOの方とミーティング

化させない。③被災地復興活動に貢献する。④現地の方々と交流をする。という4つの目標を掲げました。より多くの学生に被災地に行ってもらいその現状と諸問題を自分の目で見てもらう、それに併せて、現地の方々の交流をし、被災地に再び関心を向けられるような活動を目指しました。

現地での主な活動は、ひとつ目に現地のNGO団体に受け入れていただき、参加可能なボランティア活動を行いました。仮設住宅をまわりお話を聞き、その中から問題を見つけるといものやお祭りの手伝いなどです。二つ目は現地の復興支援協議会の語り部の方



第一回派遣 仮設住宅にて



第四回派遣 仮設住宅にて食事を一緒に作る



第一回派遣 門脇小学校前で語り部さんにお話を伺う



第二回派遣 石巻市内でのお祭りの様子

に、現地で借りたバスに同乗してもらい、被災地を回りながらの現地の過去と現在についてお話ししてもらいました。三つ目は、現地で消費活動をする。そして食事や買い物をしたりすることです。これにより、現地のポジ

ティブな面も見ることができました。派遣先以外での活動は、出発前に自分なりのテーマを見つけてもらい、派遣後にそのテーマでレポートを書いてもらいました。派遣後には学校で報告会を開きました。レポート

をまとめてもらうことで、経験をストックすることができ、さらに他人に話すことで被災地の現状を知ってもらえる機会の拡大につながりました。

成果

【被災地にとって】

まずは現地に出会ったたくさんの方々と、笑顔にできたことです。若い人たちと接すると、元気をもらえる気がするね。とおっしゃって下さっていたのが印象的でした。さらに被災地で買い物をしたりご飯を食べたりしたこと、微力ですが経済の循環に関わることができました。語り部の方のお話の中で、被災地の復興は私たちの力だけではできない。多くの人に被災地に来てもらって、少しでもお金を使ったりしてもらいたい。そして少しでも多く、この土地のいいところを見つけてもらいたい。とおっしゃっていました。また私たちが経験したこと聞いたことを、東京

に戻ってきてから周りの人に話すことで、被災地の現状を知らせることができました。周囲の人に話すことで多くの人が、テレビの情報と違う、まだまだ復興は遠いという現実に驚いていました。

【私たちにとって】

スタディツアーに参加してくれた人の多くは被災地を訪れるのは初めてでした。中には被災地はもう復興していると思っている人さえいました。彼らは被災地に連れて行き、現地を見ることで大きく認識が変わりました。現地の人々との交流の中でまるで、現地に祖父母ができたようだとか、親戚ができた

たいだ、と言って現地の人々とのつながりに大きく関心を向けた人もいました。さらに一人ひとりがあらかじめテーマを持つことで、被災地に関する知識も深まりました。報告会を実施するに当たり、参加者に準備してもらったので、発表の仕方や人前で話すという経験が、日常の授業などでも役に立ったという人もいました。

このように、TVTの活動を通し被災地やその人々に関わったこと、そして被災地から遠く離れた場所の人々にも少なからず影響を与えたことが、TVTの活動の成果だと思います。

反省点・今後の展望

今回の反省は、スタディツアーの参加者のほとんどが、国際学部生であったということです。やはり拓殖大学の名前で活動している以上、国際学部のみならず他学部にも活動に加わって欲しいと思っています。こうなった理由は広報活動に問題があったと思います。広報の方法はポスターの掲示と、説明会の実施でした。ポスターの掲示は全学的にすることができましたが、説明会については、八王子キャンパスの国際学部棟とA館で行え

ませんでした。国際学部棟で行った際には多いときは30名を超える参加者が集まりましたが、A館で行った際は5名ほどでした。広報の難しさに気付かされました。

改善策としては、SNSやHPを用いてもっと広範囲に告知できるようにすること。また説明会の告知に、もっと力を入れ参加を促すことです。

今後の展望は、まずTVT全体の組織としての体制固め、次にあらゆる活動に対応でき

る準備をすることです。私たちの活動はどれをとっても「被災地の復興」を目的とするものであり、その方法は多種多様です。私たちができることを私たちに考えて行うことで、微力ながらも被災地復興に貢献できればいいと考えています。TVTとして派遣活動を行うことはもちろんのこと、私たちの活動を発信し知ってもらうことによって、他の学生、周囲の人々が刺激され、被災地に足を運んでもらえるよう、活動をしていきたいです。

収支報告

支出総額 354,850 円			奨励金 300,000 円		
内訳					
項目	個数	小計	項目	個数	小計
<交通費> 高速バス 東京→石巻	27名	216,000円	<謝礼費> 講演費として	4回	40,000円
マイクロバス	4回	60,000円	ボランティア保険加入費	27名	37,800円
<購入費> 地図		1,050円			
			合計 354,850円		

ホームページ掲載

- 実施計画書▶ <http://gakuchalle.jp/blogschedule.html>
- 10月中旬報告▶ <http://gakuchalle.jp/centerReport.html>
- 学チャレレポート▶ <http://gakuchalle.jp/blogList.html>



企画名

八王子の山車文化継承を サポートする

団体名 | 工学部デザイン学科 工藤研究室 | 工学研究科 M1 代表者 笠川 芳久 他10名

実施内容

実施スケジュール 平成24年8月3日～8月5日

8月3日(金)		8月5日(日)	
05:30	山車庫(台町) 集合、山車移動(山車収蔵庫→南町会所) 補助	12:50	会所集合
07:00	会所設営補助	13:00	山車巡行参加
08:00	解散	15:00	一時解散
8月4日(土)		17:20	会所集合
09:45	会所集合、神酒所開き参加	18:00	山車巡行、辻合わせ、年番送りの議等参加
10:20	山車巡行参加(午前の部)	21:00	会所帰着、山車移動(南町会所→山車収蔵庫) 補助
15:30	山車巡行参加(午後の部)	22:00	山車庫片付け後、解散
21:00	会所帰着、解散		

毎年8月初旬に開催される『八王子まつり』は、八王子市を代表する市民祭です。その成り立ちは、甲州街道沿いに鎮座する多賀神社および八幡八雲神社の例大祭がまとまったものであり、そのためイベントの期間中には、両社の氏子町会が所有する江戸期由来の山車が多数巡行します。

山車が長時間巡行するには、多くの曳き手が必要となります。しかし、少子高齢化や都市化による構成員の減少などによって、曳き手不足に悩む自治会も多く、町外に協力者を求める例があります。南町もその一つでした。

工藤研究室の学生は、2008年度の市指定文化財調査をきっかけとして、毎年、南町の祭礼組織「南町應神睦」の一員として山車巡行に参加しています。町会および應神睦の人々からも暖かく迎え入れてもらって

います。この活動で、修士研究や卒業研究でコミュニティデザインに取り組む際に役立つ知見を得ることができました。

山車巡行に参加する者は、町会や祭礼組織の一員であることを示すために、揃いの半纏を身に付ける必要があります。これまで学生は町会のご厚意で半纏を貸し出してもらっていました。しかし、これらの半纏は本来、應神睦の入会予定者に貸し出すためのものであり、研究室が今後も継続して南町の山車巡行に参加するのであれば、いつまでも借りたままではいけません。

そこで、今後の継続的な山車巡行参加のため、ひいては八王子の山車文化継承の一助のため、拓殖大学の名入り半纏を制作し、今年は自分たちの半纏で曳き手として巡行に参加しました。



奨励金で制作した「拓殖大」の名入り半纏と帯



山車庫を出発する南町の山車



祭礼終了後に山車庫へ向かう山車



甲州街道の巡行の様子

成果

一番の成果は、やはり自前の半纏を揃えることができたことです。「拓殖大」と名前の入った半纏(「拓殖大学」の4文字では縁起が悪い)をまとっていると、本学学生の参加が一目で分かるため、南町の方々に喜んでもらえたことが、とても印象的でした。

実際の巡行では、慣れてきた学生に先導を務める万燈役を任せてもらえ、その重役を果たすことができました。また、研究室の毎年の参加が地域に知られるところとなり、南町内外の方々から暖かい声援を頂きました。微力ながら、今回の巡行参加をとおして、

八王子の山車文化の継承に関わることできたのではないかと考えています。

最後に、南町町会長の平澤東様、南町應神睦会長の瀬沼明様をはじめ、関係者の方々に記して御礼申し上げます。

反省点・今後の展望

初めての参加となった学部生は、日程表を眺めるのと実際に巡行参加することのの違いに驚いた様子でした。それは、準備を含め三日間に及ぶ巡行の規模と苦勞、祭礼に対する

地域の人々の思いの深さです。また、日頃の体力不足を思い知る機会ともなりました。

次年度は、3回目となる院生の新井と笠川、2回目となる学部生の富澤、初参加とな

る学部4年生9名が参加の予定であり、町のために私達に何が出来るのか、しっかりとミーティングを重ねて準備していくつもりです。

収支報告

支出総額 150,000 円		奨励金 150,000 円	
内訳			
項目	個数	小計	
南町の祭礼装束			
拓殖大の名入り祭半纏	5着	100,000 円	
帯	10本	50,000 円	
※全10セット購入。うち半纏5着は他予算で購入。		合計	150,000 円

ホームページ掲載

- 実施計画書 ▶ <http://gakuchalle.jp/blogschedule.html>
- 10月中旬報告 ▶ <http://gakuchalle.jp/centerReport.html>
- 学チャレレポート ▶ <http://gakuchalle.jp/blogList.html>



参加学生



企画名

官学連携による地域犯罪改善のための環境犯罪学的提言

団体名 守山ゼミ・渡邊ゼミ連合

政経学部 法律政治学科 3年
代表者 西山 佳希 他47名

実施内容

実施スケジュール 平成24年7月3日～11月28日

7月3日	板橋区役所担当者との打ち合わせ	8月29日	板橋区役所へのヒアリング
7月10日	台東区役所担当者との打ち合わせ	8月30日	東武練馬地区ひたくり現場調査
7月11日	両ゼミ打ち合わせ	9月17日～19日	合宿による成果報告会の練習
7月18日	都庁担当者との打ち合わせ	9月26日	成果報告会への最終打ち合わせ
7月30日～8月3日	板橋区役所青パト同乗	10月18日	都庁における成果報告会
8月7日	台東区役所へのヒアリング	10月19日	立川市における成果報告会
8月10日	浅草地区ひたくり現場調査	11月28日	都庁担当者との反省会

都庁治安対策本部に協力していただき、街頭犯罪の代表である「ひたくり」犯罪の発生状況を検証し、その防止について何をどのように行うべきか、守山・渡邊ゼミ合同で都の自治体代表者の方々に提言することとなりました。

まず都内の発生現場から2ヶ所を選び、実際に現地に行って調査を行いました。対象となる2ヶ所は、警視庁による犯罪発生統計も参照しながら、歓楽街の代表である浅草地区と典型的な住宅街である東武練馬駅北部地区を調査対象に決めました。これらの地区の状況を把握するため、各地区防犯担当者との打ち合わせやヒアリングを行いました。自治体に対しては、街頭照明の設置状況、市民の苦情への対応、地域パトロールの状況、住民へのひたくり防止の呼びかけなど、警察にはひたくり認知件数の経年変化、検挙率、再犯率などを取材しました。

また地図ソフト、住宅地図などを利用しながら、調査対象地区の台東区、板橋区のひた



8月1日板橋区役所での打ち合わせ



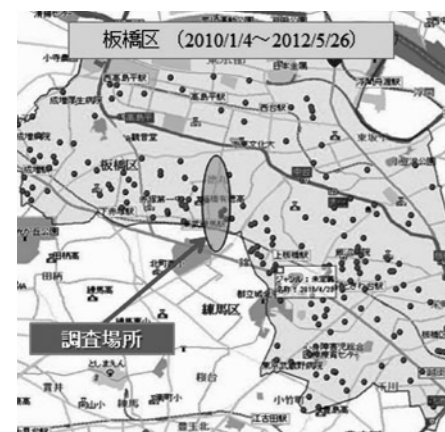
8月1日板橋区青パトに同乗し巡回に参加



8月30日板橋区ひたくり現場を調査



10月18日都庁での成果報告会



作成した板橋区ひたくり・マッピング

たくり発生地点をマッピングし、時間別の発生状況などもパソコン上で作図しました。これらを基礎資料に次の事を調査することにしました。①通行量調査:午後4時30分から午後6時30分までの通行量(歩行者、自転車、バイク)、②照明調査:道路に沿って、夜間7時前後の照度等、ひたくり発生場所の照度、街灯タイプ、③道路の周辺の形状・地形調査:地図に地域の形状記入、近辺の撮影など。そして8月の休暇期間を利用し、上記の事について、実際に浅草署、高島平署

の警察官立ち会いの下、浅草地区と東武練馬地区の道路で、午後4時から午後8時までひたくり発生現場を測量しました。

ゼミ合宿では、これらの調査結果の分析を成果としてまとめる作業を行い、成果報告会のリハーサルを何度も行いました。そして、10月中旬に守山ゼミが都庁治安対策本部で東京23区役所安全安心まちづくり担当者に、渡邊ゼミが立川市で多摩地区役所担当者を集めて、パワーポイントを利用して成果発表会を開き、改善のための提言を行いました。

成果

我々は、環境犯罪学に基づき、ひたくりは地区の街頭照度と関係しているという仮説を立てました。そこで、夜間の道路における明るさを中心に、調査対象地区の台東区と板橋区におけるひたくり発生地点の物理的環境を現場で調査した結果、次のような事に気がきました。①ひたくりは人目(人通り、車やバイクの通行数)の少ない場所、夜間照明が暗い場所で発生しやすい②犯人は逃走経路を確保するため、大通りから一本入った直線状の裏通りで発生しやすい③犯行時間は通勤帰り、買い物帰りの時間帯に集中しやすい④ひたくり犯は被害者を捜すために、コンビニ前、公園などで待機する可能性がある⑤車道

と歩道が分離されていない場所はひたくりが起こりやすい、などです。また、ひたくり犯罪の被害者は買い物帰りの女性が多いというイメージがあるが、今回の調査で、浅草地区では飲酒した男性が深夜に襲われている事例もあり、男性も被害にあうことがわかりました。

これらの調査結果から、今後、警察や地方自治体の関係者には、次のような防犯対策の実施を提言することにしました。第1に、ひたくり多発地区においては、街灯や防犯カメラの設置が必要である。それは、「犯人は顔を見られることを最も嫌がる」という環境犯罪学の研究結果に基づくためです。第2に、車道・歩道を分離してひたくりを物理的に行い難

い環境を作ること、これは交通事故の防止にもつながると思われれます。第3に、犯行の起こりやすい公園、コンビニ、学校などに対する警察や自治体のパトロールを強化して、犯罪抑止活動を続けることです。

実際の自治体関係者を集めた成果報告会でも、大学の実態調査研究が地域の安全にフィードバックできる点は大変良いし、今後もこのような官学の連携を強めるべきだという意見が多く、今回の調査と提言で多少なりとも、地域の安全に貢献できたのではないかと思います。また、ゼミ生の多くが現場の調査に参加し、自分自身の防犯意識が高まったことも、ひとつの成果となりました。

反省点・今後の展望

実際に公共の道路や街頭を使用して現場調査を行う場合、警察や地方自治体の方々の協力を得なければ実現できません。今回の調査では他にも調査対象候補があり、そこでも調査をしたかったのですが、自治体の協力を得ることが出来ませんでした。学生が該当地域で研究調査を行う場合には、外部の機関の許可、協力関係が必要であり、長い協力関係の継続と信頼を得ることが必要なのです。今回、守山先生、渡邊先生の都庁や警視庁、自治体との人脈によって協力を得ることが出来ましたが、学生が単独で行うことは難しく、先生方

のネットワークがどうしても必要になってしまう壁を感じました。特に、今回の調査は犯罪関係の事例であるために、地域住民の中には不審に思う人もおり、現場での撮影などでは住民の人権にも配慮しなければならず、実際、警察官に立ち会ってもらうなどの特別な協力も必要であったり、現場調査の難しさを感じました。

今後の課題としては、住民の犯罪不安は、「オレオレ詐欺」、「子供の安全」、「痴漢、強制わいせつ」、「防犯カメラの効果」などたくさんある事例があります。自治体関係者の方からは、例えば、「オレオレ詐欺」についてのテーマを扱ってほ

しいという要望もいただきました。来年の活動はこれらの事案の中から検討する予定です。

今回の調査では都庁、警察署、自治体の方々と交流することによって、犯罪問題に対して、日々、多くの方たちが防犯に取り組んでいるかを知ることができました。そして、犯罪というリアルな問題には、大学の学問として学ぶだけでなく、実際の地域問題として具体的に解決する方法が求められていると感じました。

なお、都庁では今回の成果報告書をパンフレットに掲載していただけることになりました。

収支報告

支出総額 251,193 円			奨励金 250,000 円		
内訳					
項目	個数	小計	項目	個数	小計
<交通費> 板橋区青パト同乗に30名参加			<交通費> 都庁成果報告会への30名参加		
板橋区役所駅まで	28名×2	25,760円	都庁前駅まで	30名×2	28,800円
高尾駅から	2名×2	4,240円	立川成果報告会への12名参加		
高島平警察署へのヒアリング8名参加			立川駅まで	12名×2	16,800円
高島平駅まで	8名×2	8,800円	照度計		21,070円
台東区役所へのヒアリング5名参加			<購入費> 住宅地図		30,345円
上野駅まで	5名×2	3,200円	プロジェクター		39,800円
浅草地区ひたくり調査に18名参加			道路測定機その他一式		10,460円
浅草駅まで	18名×2	16,560円	ノート、ボールペンなど事務用品一式		18,010円
板橋地区ひたくり調査に19名参加			記録媒体、電池など一式		3,548円
東武練馬駅まで	19名×2	13,300円	<その他> ボランティア保険	35名	10,500円
			合計		251,193円

ホームページ掲載

- 実施計画書▶ <http://gakuchalle.jp/blogschedule.html>
- 10月中旬報告▶ <http://gakuchalle.jp/centerReport.html>
- 学チャレレポート▶ <http://gakuchalle.jp/blogList.html>



企画名

日系ブラジル人、職育の体制づくり

団体名 | 国際学部(有志) | 国際学部 国際学科 2年 代表者 和田フェルナンド 他6名

実施内容

実施スケジュール 平成24年7月20日～11月31日

7月21日	第一回 訪問 コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 太田校(太田市) 代表者1名 先生や校長先生とディスカッション/日系ブラジル人の問題把握/日系ブラジル人への取り組み/学校との交渉	10月15日	第四回 実行 拓殖大学紅陵祭参加 メンバー4人 活動広告/団体の資料配り
7月31日	第二回 訪問 コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 太田校(太田市) メンバー5名 交流会	10月16日	第五回 実行 拓殖大学紅陵祭参加 メンバー4人 活動広告/団体の資料配り
8月24日	第三回 訪問 コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 太田校(太田市) 代表者3名 人生育成講座/大学進学相談/情報提供及び書類の通訳、翻訳	11月24日	第六回 訪問 コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 太田校(太田市) 代表者1名 活動広告終了発表

【団体の目的】

私たち国際学部有志グループでは、日系ブラジル人の子供たちに目を向け、日系ブラジル人の教育水準の向上と、彼らが日本の社会に進出できるよう教育の体制づくりを目指す、国を超えたボランティア活動として企画しました。

【現状の問題】

現在約21万人の日系ブラジル人が日本で暮らしています。多くの在日ブラジル人は、自動車や、家電関連などの工場が多く立地する地域に家族とともに暮らしており(いわゆる外国人集住都市)、その子供たちの多くは日本の公立学校やブラジル人学校に通っています。しかし、どこにも通えず不就学となっている子供たちも少なからずいます。日本やブラジル政府の支援がなく、学校生活をフォローできる人材が少ないのです。

【目的】

このような社会問題に対応するため、日系ブラジル人子弟の教育問題に取り組み、多くの日系ブラジル人の教育をサポートし、日本の社会へ進出できるよう教育基盤をつくる。そして、活動を通じて彼らに自立心や社会的向上心を養う機会を与え、将来専門職や技術職



メンバー揃っての活動 左から wada fernando, koyama hinako, A In Lee, ikeda ryou, susanto barua

に就くことを可能にし、日系ブラジル人の子供たちに希望を持たせたい。日本社会とブラジル人社会との交流と相互理解を深め、相互の文化の共有と共生を目指し、大多数の日系ブラジル人の子供たちを日本社会に参入できるようにすることが我々の目的です。

【活動内容】

まず、群馬にあるブラジル人の学校ピタゴラスに本企画を提案するために、直接学校へ訪問し校長先生に面会をお願いしました。8月も学校を訪れ、問題を直接聞くことで、本当に必要なことは何かを確認し、その問題に添った



学園祭 拓殖大学の参加 左から susanto barua, fukui yuichi, wada fernando, ikeda ryou

活動を開始しました。校長先生から教えていただいた実状は今でも心に響いています。それは日系ブラジル人の教育環境は前より悪化している。そして日系ブラジル人の問題は根深い。1989年に日本の出入国管理法が改正され、3世までの日系ブラジル人とその家族を無制限に受け入れることを始めると、日本での高収入を目的に、もしくはブラジルで職を失った多数の日系ブラジル人が日本へ出稼ぎにくるようになりました。日本から出稼ぎを受け入れることは彼らに夢を与えるチャンスでもありますが、日本で働くために外国人を受け入れる以上、一般的な生活水準の保証は必要です。でなければ日系ブラジル人の家族、特に何も罪のない子供たちの将来まで影響を与えることとなります。

ここで、20年の間何も改善されてないのが日系ブラジル人の子供たちの現状ですが、我々が必要だと思ったのは「彼らの自立心を起こし、自分たちの足で動くこと」です。そのために第二回の活動では日本人大学生と留学生の交流を企画しました。留学生2人はブラジル人と韓国の留学生、そして日本人学生2



日本語で会話をするブラジルの留学生 サントバルア



高校二年生のリカルド、将来日本で働くことを希望していた。

人が参加してくれました。

学校では、これから社会に参入する子供たちを対象に、高校1年生から3年生までの各クラスへ訪問し私たちの活動の説明、各メンバーの紹介、そして、将来について一緒に話しあいました。その後、子供たちと親しくなるために、私たちは体育の授業と一緒に参加することになりました。

第二回と第六回の活動では、これからの日本の社会に参入するために下記のテーマで講義を行いました。

○将来の育成と日本の大学への進学 ○卒業後の進路 ○日本の社会のシステム ○資格の所得 ○ブラジルと日本の社会の比較

第四回と第五回の活動では、拓殖大学の大学祭に参加しました。ここでは、メンバーで

学んだ事、経験したことについて資料としてまとめ、多くの人たちに日系ブラジル人の問題を伝え、グローバル社会になりつつある現代で活かせるように、また日本が抱えている国際問題を紹介して、学生みんなで考えてもらえるよう、作成した活動報告を大学祭参加者に配布しました。

成果

本企画のねらいは、日系ブラジル人との日本人の交流を築き、将来的にブラジルと日本の経済の柱となるような、優秀な人材の育成にあります。したがって長期的な成果を求めた企画ですが、短期的な成果としては以下が挙げられます。

日系ブラジル人の教育向上を促したことで、子供たちはこれからの卒業後の進路である将来を考えるといます。また、自分自身の教育に投資する選択を知ることで、将来的な希望

をもつようになったのではと思います。加えて日本人学生との交流を通じて、日本に住む以上、日本の歴史、文化の理解を深めることは必要で、子供たちはその国の言語、日本語の勉強の大切さを、日本人学生から学ぶことができました。日本社会参入のドアを開くきっかけになったのではないかと思います。

【長期的な成果】

ブラジルは2014年のワールドカップと2016

年のオリンピックを控えて、将来的な経済成長の期待できる国です。これから、日本の企業は海外展開で南米を中心に市場を求めていくに違いないでしょう。そのため、教育水準の高いバイリンガルの人材確保が必要になると予測されます。将来のために日系ブラジル人の子供たちを支援することは、日本にとってもブラジルにとっても互いの経済の成長への貢献となると見込まれます。

反省点・今後の展望

【反省点】

今回の活動ではたくさんの反省点がありました。まず、日系ブラジル人の問題である教育問題は簡単に解決することはできません。日系ブラジル人の問題は日本政府とブラジル政府の間で複雑な面があります。高等学校を卒業後、日本の大学へ進学できない生徒がいます。進学できない理由は、教育の意識が薄れていることではなく、実は法律の問題なのです。

他にも高等学校の生徒の中には、日本でブラジル人学校卒業後は帰国し、ブラジルの大学へ進学する生徒もいます。こういった学生は日本の社会に興味をもつ必要はありません。一方で、経済的な面で進学したくても、できない生徒もいます。このように一人一人の生徒で問題が異なるため、各生徒に合わせて考えなければならない。そのため全てのケースについてアドバイス、情報の提供を網羅することはできませんでした。

【今後の展望】

今後の活動では、群馬県のピタゴラス学校だけに留まらず、日本に住む日系ブラジル人の人たち全員に情報提供できるように、SNS方式で日系ブラジル人のグループを作ろうと考えています。日系ブラジル人同士でのやり取りができるように、インターネットでの活動を続ける。SNSでは実際に大学に通う日系ブラジル人や、日本の社会に参入してきた日系の方との情報交換を目的とします。

収支報告

支出総額 100,610 円			奨励金 100,000 円		
内訳					
項目	個数	小計	項目	個数	小計
<交通費> 7月21日 第一回 北千住-太田(往復)代表者	1人	4780円	<交通費> 10月16日 第五回 学園祭参加 各自宅-高尾(往復)	4人	4,790円
タクシー(往復)代表者	1人	1580円	<事務用品> プリント代、A4の資料紙、A4のファイル、文房具		5,500円
7月31日 第二回 北千住-太田(往復)	5人	23,900円	<その他> 飲み物代各活動		6,100円
タクシー二台(往復)	5人	1,580円	飲食代各活動		11,500円
8月24日 第三回 北千住-太田(往復)代表者	3人	14,340円	団体のT-shirt	4着	16,870円
タクシー(往復)代表者	3人	1580円	インターネットカフェで資料作成		3,300円
10月15日 第四回 学園祭参加 各自宅-高尾(往復)	4人	4,790円			
			合計 100,610円		

ホームページ掲載

- 実施計画書 ▶ <http://gakuchalle.jp/blogschedule.html>
- 10月中間報告 ▶ <http://gakuchalle.jp/centerReport.html>
- 学チャレレポート ▶ <http://gakuchalle.jp/blogList.html>



企画名

拓殖大学から広がる地域づくり ～世界に飛び出す子供たち～

団体名 | 国際学部 下條正男ゼミ | 国際学部 国際学科 2年 代表者 篠原 智恵 他11名

実施内容

実施スケジュール 平成24年5月26日～平成25年1月24日

5月26日	八王子第五小学校に企画を提案	11月8日	ゼミ生ミーティング
5月29日	校長先生との顔合わせ	11月15日	買い出し
7月27日	先生方との企画ミーティング	11月26日	全体ミーティング
8月18日	ゼミ生ミーティング	12月4日	最終確認
9月27・28日	留学生、学生有志 説明会	12月7日	第三回 チャレンジ企画 第五小学校にて行う ～ミニ海外旅行～
10月8日	顔合わせ・ミーティング	1月24日	第四回 チャレンジ企画 インタビュー
10月10日	第一回 チャレンジ企画 第五小学校にて行う	未定	第五回 子供たちの発表
10月23日	全体ミーティング		
10月31日	第二回 チャレンジ企画 第五小学校にて行う		

近年、グローバル化が叫ばれる日本で、内向的な若者が増えています。一方、近隣国の発展は著しく、続々と企業は海外参入をし、積極的かつ外向姿勢の人材が求められています。拓大には身近に多国籍の留学生が大勢おり、国際交流ができるにも関わらず、日本人学生と留学生との交流はまだ多くありません。

私たちは下條教授に「大学にはパワフルな留学生たちがいるが、日本人と交流する機会がなかなかない!」という相談を受けました。その話を聞き、留学生と交流し、なおかつ何か拓大でしかできないようなことはないかと話し合い、この企画を立ち上げました。初めは子供たちと一緒に遊ぶというだけの小さな企画から様々なことが組み合わさり、留学生と一緒に小学校を訪問する内容が出来あがったのです。

実施内容は以下の通りです。

【第一回目】

参加留学生
(中国・フィリピン・マレーシア)
国当てクイズ(パネルディスカッション)



国当てクイズ(パネルディスカッション)



ミニ旅行の様子(マレーシアグループ)

グループ別(お金からわかる文化、歴史)

【第二回目】

参加留学生
(韓国・ベトナム・台湾)
同様のこと

【第三回目】

参加留学生
6ヶ国(中国・フィリピン・マレーシア・韓国・ベトナム・台湾)



集中して話を聞く子供たち(韓国)



民族衣装を着て!

世界へミニ旅行

子供たちにパスポートを渡し好きな国へ旅行してもらおう。国ごとの唄や、踊り、言葉遊びをする。

【第四回目】

子供たちが興味を持った国を調べその国の留学生にインタビューを行う。

第一回目と第二回目で基礎的な国のことを知ってもらい、グループ別の発表では、少人数



休み時間にギターを弾いていると子供たちが集まり笛でディスカッションが始まる。

で行うことで質問もしやすい、身近な距離になれるよう心懸けました。

第三回目は、自分の興味のある国に仮想旅行してもらい、国ごとに民族衣装を着たり音楽を流したりなど、雰囲気を感じてもらいました。ゲームや手遊び、実際に民族衣装を着たりと、子供たちと一緒に楽しむことが出来ました。

これまでの活動にあたり、本当にたくさんの方々に協力してもらいました。小学校の先生方や、ゼミの先輩、留学生のみなさん、日本人有志の学生、衣装の面ではアジア研究会・コリア研究会など多くの方々に支えてもらいました。ご協力くださった皆様本当にありがとうございました!!

集合写真!!



成果

今回の企画は、まず募集ポスターを学校内に掲示するところから始めました。最初は夏休み中の実施予定でしたが小学校の都合や、留学生の人数が集まらず開催することはできませんでした。開催までも様々な問題がありました。それは、参加してくれる留学生が集まらない、授業の内容が具体的に決まらない等です。企画を実行に移すことの難しさを痛感しました。

しかし、一回目の実施から二回目、三回目とやっていくうちに留学生同士の会話、ネッ

トやポスターの告知で活動を知った、他学部の留学生や他学部の学生がたくさん集まってくれました。

授業も一回目より二回目、三回目と国ごとに留学生と日本人スタッフが話し合い内容を決めていく形をとり、仕事もみんなできようになり、効率の良い組織ができました。また、グループごとに話し合うことで、私たち自身で異文化交流が出来、外国を知る良い勉強にもなりました。

また授業では、子供たちがそれぞれの国に

とても興味を持ってくれました。授業中にたくさん質問が出ましたし、家族、先生へのアンケートで、子供たちから私たちの活動の話をよく聞くという回答が多かったと聞きました。また、学校新聞や地域の回覧板でも私たちの活動が紹介されたり実施日が載っていたりと、地域の方にも外国への関心、拓大への関心が深まったようです。

この企画では、小学生や留学生、日本人スタッフ、皆が多くの笑顔に包まれていた。その姿はまさに私たちの理想であったと思います。

反省点・今後の展望

まず、一つ目の反省点として挙げられるのは、当初予定されていたはずの紅陵祭での活動ができなかったことです。紅陵祭では八王子キャンパス内にあるログハウスにて、高尾山学園や八王子市第五小学校の生徒たちと我が校の留学生を招き、様々な国のお茶やお菓子、外国の唄や楽器を演奏するなど海外カフェを開き、交流と国際理解を深める予定でした。これは、当初私たちの企画のビックイベントだったため実行できなかったことが悔やまれます。実行に移

せなかったのは、ログハウスの施設の貸し出し条件の認識不足や、今年からログハウスでの飲食が禁止になっていたことなど、下調べが足りなかったことが挙げられます。しかし、この企画は必ず次の紅陵祭で実行したいと考えています。

二つ目は、子供たちに文化を伝えるには、時間が足りなかったことです。小学校の授業時間は“短い十日数”も少ない。短い時間で子供たちにわかりやすい言葉で、飽きないように授業内容を考えることは今回私たちの一番悩んだ課

題です。その時々で最善を尽くしましたが、もっとやれることはあったと反省しています。特に、担任の先生ともっと密接に連携を取るなど工夫出来る点はたくさんあったと思います。

以上の反省を踏まえ、今後私たちはこの企画で出会った縁を大切に国際交流・理解が深まるような企画を考えます。そして、留学生と日本人学生の壁のない、地域と大学の連携、拓殖大学から広がる地域づくりの形を作りたいと思います。

収支報告

支出総額 100,040 円

奨励金 100,000 円

内訳

項目	個数	小計
<交通費> 10月10日 高尾駅～西八王子駅 往復	14名	4,200円
10月31日 高尾駅～西八王子駅 往復	16名	4,800円
12月7日 高尾駅～西八王子駅 往復	20名	6,000円
駐車場代		800円
1月24日 高尾駅～西八王子駅 往復	15名	4,500円
駐車場代		800円
インク(プリンター用)	2	11,960円
<購入費> 印画紙(A4写真用)	2	2,760円

項目	個数	小計
<購入費> 文具(折り紙、型紙、色紙、ペン、ヒモ、布)		2,799円
CD/オーディオ		6,890円
<クリーニング代> 民族衣装	5着	5,250円
<会食費> 10月10日 反省会		13,072円
10月23日 ミーティング		1,637円
10月31日 反省会		9,500円
12月7日 反省会		13,072円
1月24日 お弁当	15人	12,000円

合計 100,040 円

ホームページ掲載

- 実施計画書▶ <http://gakuchalle.jp/blogschedule.html>
- 10月中間報告▶ <http://gakuchalle.jp/centerReport.html>
- 学チャレレポート▶ <http://gakuchalle.jp/blogList.html>



企画名

私たちができる地域貢献 —小学校での英語活動を通して—

団体名 | 国際学部 佐藤ゼミ 有志 | 国際学部 国際学科2年 代表者 坪倉 大輔 他13名

実施内容

実施スケジュール 2012年6月～2013年2月 八王子市立館小中学校にて

6月1日(金)	館小中学校にて、佐々木副校長先生と会合を持ち、今後の大まかな流れと日程を調整	11月14日(水)	勉強会、および、事前打ち合わせ
6月22日(金)	英語活動の事前準備、および、模擬授業	11月16日(金)	英語活動の事前準備、および、模擬授業
6月23日(土)	第1回サタスタ英語活動実施	11月17日(土)	第5回サタスタ英語活動実施
7月20日(金)	英語活動の事前準備、および、模擬授業	12月13日(木)	事前打ち合わせ
7月21日(土)	第2回サタスタ英語活動実施	12月14日(金)	英語活動の事前準備(プレゼント準備含む)、および、模擬授業
9月28日(金)	英語活動の事前準備、および、模擬授業	12月15日(土)	第6回サタスタ英語活動実施(クリスマス企画)
9月29日(土)	第3回サタスタ英語活動実施	1月18日(金)	英語活動の事前準備、および、模擬授業
10月19日(金)	英語活動の事前準備、および、模擬授業	1月19日(土)	第7回サタスタ英語活動実施
10月20日(土)	第4回サタスタ英語活動実施	2月16日(土)	第8回サタスタ英語活動実施(予定)

【これまでの活動内容(サタスタ)】

サタスタでの英語活動を合計7回(1月時点)実施しました。「サタスタ」とはサタデー・スタディのことで、館小中学校では月1回、土曜日に学習会を開催しています。私たちは児童に英語の楽しさを知ってもらうことを第一に考え、各回の活動に取り組みました。活動はサタスタの時間を利用してもらい(約30分)、毎回、多くの児童(平均25名)に参加してもらえました。

6月に行われたサタスタでは、英語の歌にある単語を学習してもらいました。単語を憶えた後は、実際にギターに合わせて皆と一緒に英語の歌を歌いました。

7月のサタスタでは、身体の名称を英語で教えました。それぞれの部位をフラッシュカードやピクチャーカードを用いて憶えもらい、その後、身体を動かしてその名称当てゲームなどをしました。



サタスタ当日の事前打ち合わせ

9月は、前回の復習を行い、その後、少し発展させた形で、これまで覚えた英単語をチームごとに分かれて競争で伝える「伝言ゲーム」を行いました。さらに、Jazz chantsというジャズの音楽のリズムに乗せて英語の発音をする練習を行いました。

10月は、色についての英語を学んでもらいました。その後、チーム対抗の色当てゲームを

行いました。最後に皆で英語の歌(London Bridgeなど)を歌いました。

11月は、前置詞(in, on, underなど)についてです。前置詞を含んだ英語の指示を受けた児童が、箱の上や中にボールを置いていく練習をしました。この回からは、高学年(5、6年生)向けに別の教室で簡単なあいさつなどの英語表現を中心とした英会話の教室を始めました。



クリスマス会でのギター演奏



八王子市立館小中学校の先生方と記念撮影



英語活動風景



5、6年生対象の英語活動

12月は、クリスマス企画ということで関連するキャラクターやツリーの英語を練習しました。そしてツリーに、児童に作ってもらった絵を貼りました。高学年は「willの使い方」を

勉強し、冬休みに何をするかなど英語で発表しました。最後には一堂に介し、文房具のクリスマスプレゼントを贈りました。そして、クリスマスソングを歌いました。

毎回の活動の最後には、英語の楽しさを知ってもらう目的で、ギター演奏(洋楽)を行いました。

成果

計7回に及ぶサタスタでの英語活動において、様々な成果が得られました。まずは児童の英語に対する関心が高くなったということを感じたいと思います。身体を動かしたり、音楽のリズムに合わせて英語を学んだりすることで、自然と英語になじみ、楽しく学んでくれました。英語ゲームでも児童は喜んで取り組んでくれ、活動の中で、「今、何て言ったの?」、「これってどういう意味?」など、英語に対する関心を示す姿も多く見られました。児童が積極

的に英語の単語を発音し、話す意欲が見られ、学ぼうという気持ちを持ってくれたことは一番の成果だったと思います。

この活動は、小学校の諸先生方、保護者と、たくさんの方から「子供たちが楽しく英語を学んでいる。」「とても良い活動で本当に感謝している。」などと好評をいただきました。この活動を通して、地域貢献もできたものと考えています。

また、全体での活動において、子供たちの

ことを知ることができたのも成果の一つです。子供たちと触れ合った時間は私たちにとても良い経験となりました。仲良くなることで子供たちは安心感や、活動自体にも怖がらずに積極的に参加してくれました。企画の第一の目的でもあった「英語への関心を持たせる」ことは、今回の活動で達成できたと思います。この活動で学んだことをきっかけとして、英語への興味をより強く持ってもらえれば願っています。

反省点・今後の展望

この活動での反省点としては、準備期間が短かったことが挙げられます。私たちメンバーもなかなか集まれなかったこともあり、準備のための人員が限られたこともあり、結果、活動に使う教材等の用意も時間が掛かり、完成が前日ギリギリになった時もありました。また、英語活動の内容についても、もっと工夫できたのではと思います。メンバーでのミーティングが昼休みの時間内であったこともあり、模擬授業をしてから、それを向上させる討論の時間などがもっと取れば良かったと思います。

今回の小学校での英語活動は何もかもが初めての経験で、私たちも戸惑いがあり、うまくいかないこともたくさんありました。そんなときは、佐藤先生に教材を提供していただき、指導していただきながらやってきました。活動を重ねるごとに子供たちとも打ち解け、私たち自身も楽しく活動ができました。この活動は今後も継続したいと思っています。小学校の先生方や保護者の方から「ぜひ続けてほしい」との応援をいただきました。

この活動を通して、私たちはとても素晴らしい経験ができて、たくさんの方を

学びました。これまでの成功例や失敗例などを踏まえて、継続的にこの地域貢献活動にゼミとして取り組んでいきたいと思っています。

学生チャレンジを通して、私たちの大学時代に最も重要な多くのことを学びました。「友情、チームワーク」が築けたこと、英語活動を通して、「人に教えることの大変さ、楽しさ」を学ぶことが出来たこと、そして、地域貢献をして、「人の為になる」ことの喜び、多くのことが経験できました。このような機会と活動を支えてくれた大学に心から感謝します。

収支報告

支出総額 101,054 円			奨励金 100,000 円		
内訳					
項目	個数	小計	項目	個数	小計
<交通費> 文京キャンパスまでの交通費合計	2名	940円	<教材費> 小学校英語教育関連書籍・教材		9,555円
館小中学校までの交通費合計	延べ48名	24,000円	<ミーティング費> 軽食代		14,336円
<文房具費> コピー・プリント代		12,128円	菓子・飲み物代		12,344円
文房具(画用紙、テープ、ペン、その他)		6,501円	<謝礼費> 挨拶粗品代		3,000円
名札		420円	<その他雑費> 小学校の先生方をお招きした反省会		13,000円
児童へのクリスマスプレゼント用文房具		4,830円			
			合計 101,054円		

ホームページ掲載

- 実施計画書 ▶ <http://gakuchalle.jp/blogschedule.html>
- 10月中間報告 ▶ <http://gakuchalle.jp/centerReport.html>
- 学チャレレポート ▶ <http://gakuchalle.jp/blogList.html>